

種名	<u>ニホンマムシ</u> <u>Agkistrodon blomhoffii</u> 
分類	有鱗目クサリヘビ科
俗称	西日本では、ハミ、ヒラクチなどと呼ばれている。ハミは咬む(はむ)が訛ったもの。
形態的な特徴	全長40～65cmで、メスの方がやや大きい。胴は太くて短く、尾は短くて急にくびれる。毒蛇としてよく知られ、上あごに一对の毒牙をもつ。背面は褐色～暗褐色で左右に20対前後の銭形斑紋があり、落ち葉の上などでは保護色となっている。目と鼻の間に一对のピット器官と呼ばれる感覚器があり、赤外線熱を感知して、獲物や外敵を察知することができる。マムシの銭形斑紋とアオダイショウの幼蛇の様子はよく似ているため、しばしば間違えられることがある。
分布	北海道、本州、四国、九州。島嶼では国後島、焼尻島、天売島、佐渡島、隠岐、杣岐、五島列島、甑島列島、屋久島、種子島、伊豆大島に分布する。
繁殖行動	毒蛇として恐れられているが、積極的に人を襲うことはない。森林やその周辺の田畑に多く、主に夜間活動してカエルやネズミを中心にヘビ、トカゲ、鳥、魚など小型の脊椎動物を幅広く食べる。他のヘビが卵を産むのに対し、マムシは子ヘビを産む卵胎生である。交尾は8月から9月にかけての夜間に行なわれ、翌年の同じ時期から10月初めにかけて5匹前後の子ヘビを産む。子ヘビは約20cmで、体色も成体とほとんど同じであるが、尾の先が明るいオレンジ色をしている。冬眠の前と7月頃の妊娠メスはよく日光浴に出てくるため、この時期に人が咬まれる事故が多い。寿命は10年くらいと考えられている。
生息場所	平地から山地まで広く分布し、森林やその周辺の田畑に生息する。とくに水辺や湿った場所を好み、開けた低地ではあまり見られない。ふだんは、草むらや物陰でとぐろを巻いて身を潜めている。
食性	上陸した個体は灌木や草の上でクモやハエ類、ガの幼虫などを食べて生活する。
生息環境への配慮事項	マムシは毒蛇として恐れられている一方で、マムシ酒や漢方、民間療法に利用されるなど、人々の生活に身近な生き物であった。しかし、近年はとくに都市近郊で減少傾向が指摘されている。本種は森林周辺の湿地のようなじめじめした場所を好む。このような場所は一般に放置された危険な場所とみなされ、環境改変が行なわれやすい場所である。また本種のような毒をもつ生き物は、一般的には保護の対象として受け入れられにくい。しかし、このような環境とそこに生息する生物がいることで、多様な生物相が維持され、生態系が保全されるという一面もある。したがって、ビオトープのような形で一般の人々の理解を得ながら、生息環境および生物種の保全を考えていくことが必要であろう。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	